

# 春の歌

— その二 —

曾 根 保

英語に顯れた佳麗な唄や抒情詩を蒐めた選集の数は非常なものであるが、中で特に光つてゐるのは、一八六一年に初版を出し、九一年に終極版を出したバルグレイヴ (F. H. Palgrave) の『金玉集』(The Golden Treasury)であらう。編者バルグレイヴは一八八五年から九五年までオックスフォード大學の名譽ある詩學講座擔任の教授で、また時の桂冠詩人 (Poet Laureate) テニスンに特に親交のあつた人である。従つて『金玉集』出版に關しては、幸ひにも當初から詩人テニスンの贊同ミ援助ミがあつた。一八六一年ミ言へばヴィクトリア女王の即位後既に二十四年を経過し、テニスンやブラウニングも當時既に詩壇に聞えてゐたが、同集の選擇が當時故人ミなつてゐた人々の作品からすることになつてゐたため、遺憾ながらこれらの巨匠の作が漏れ

るこゝミなり、實際選まれた詩歌の年代は十六世紀の中葉から十九世紀の初頭までに限られてゐる。それで編者歿年の一八九七年に第二篇を出して初篇の遺漏を補ひ、主としてヴィクトリア朝詩人の抒情詩の選擇を行つたのである。これは不幸にして世の歡迎を受けるに至らなかつた。三百餘年に亘つて高雅な詩眼を馳せ、縦横に普く涉獵して丹念に蒐集した詩歌をバルグレイヴは、たゞ作者の生年又は歿年を規準にして羅列したのではなく、全部を年代的に先づ四分し、各作品の内容ミ形式ミを參案して、我が國の歌合に似た類別法に依り、更に之を配置した。この點が編者苦心の存するところで、又同時に『金玉集』初篇を英國詩歌選集中の白眉たらしめたのである。今日マクミラン會社から出てゐる本には第二篇を考案してビニョン氏の編んだ

「第五卷」が添へてある。所謂「新しい詩」を求めることは出来な  
ないが、英詩鑑賞の入門にはこの『金玉集』一本を必ず備へなければ  
ならない。

さて『金玉集』の巻頭を飾るものはトマス・ナッシュ(Thomas Nash, 1567-1601)の『春』を題する抒情詩である。ナッシュはシェイクスピアやマローロウ同時代の人で、不羈狷介の性行のために世俗を争ひ、友人と相容れず、さかしく窮乏の中に身を置いて得意の毒舌皮肉を恣にした所謂「大學出の才人」(University Wit)である。サフォクの海邊ロウストフトに生れ、ケインブリッジ大學で四年間學び、一五八六年B.A.を得、イタリー旅行から歸つて、一五八八年以後ロンドンに居を定め、グリーンやビールなごみ共に文筆の事に従つた。専ら批判と諷刺を事としたが、時には劇をも書いた。今日残つてゐる彼の劇としては『ウィル・サマ一の遺言』(Will Summer's Testament)を題する一篇に過ぎないが、ナッシュが今日一般に知られてゐるのはこの喜劇によつてではなく、その中に挿入された小曲『春』の歌によつてなのである。シェイクスピアが大學出でないの

彼を輕蔑したナッシュは、『春の歌』によつてやうやくその名を知られてゐる有様だが、輕蔑されたシェイクスピアは遙に有名になり、遙に偉大な業績と影響を遺した。全く運命の皮肉である。

### SPRING

Spring, the sweet Spring, is the year's pleasant King;  
Then blooms each thing, then maids dance in a ring,  
Cold doth not sting, the pretty birds do sing,  
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!

The palm and may make country houses gay,  
Lambs frisk and play, the shepherds pipe all day,  
And we hear aye birds tune this merry lay,  
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!

The fields breathe sweet, the daisies kiss our feet,  
Young lovers meet, old wives a-sunning sit,  
In every street these tunes our ears do greet,  
Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-witta-woo!  
Spring! the sweet Spring!

詩型は各行主としてマイアムニック (iambic) —— 但し第一行の Spring the dance in' などから Cuckoo などはトロケイック五韻脚 (5 feet) から成り、第二韻脚の後に休止を有し、そこにも中間の押韻があつて、一行が二分された形になつてゐる。第一スタンザでは Spring, king, thing, ring, sting, sing' 第二スタンザでは may, gay, play, day, aye, lay' 第三スタンザでは sweet, feet, meet, sit, street, greet が韻を踏んでゐる。sit だけは不完全韻であるが、短い詩の中によくもかう押韻をせたものだから感嘆の外ない。各スタンザに鳥の啼聲の擬聲 (onomatopoea) が一行加はり、最後のスタンザには更に餘分の一行が添へてあつて、締めくくりになつてゐる。

第一行の king については至高最上のもので、the year's pleasant king は一年中で一番愉快な季節からいふ。Then には「その時」、即ち春。blooms each thing は「あふあふものが萌え出さる」。each = every. blooms each thing には倒置法が用ゐられてゐる。maids = maidens, young girls. in a ring には輪を成して。Cold doth not

sting は骨身に沁むやうな寒さを去つたからいふ。

doth = does. do sing の do はリズムのためのタメの添へたもの。Cuckoo, jug-jug, pu-we, to-wita-woo なども小鳥の啼聲を模した語で、cuckoo は朝公、jug-jug は nightingale (夜啼鶯) の啼聲、pu-we (pu: wi:) to-wita-woo (tu: wita-wi:) が何鳥の啼聲であるかは註釋家の間に議論があるが、pu-we は鶇の一種 peewit 即ち plover. to-wita-woo は英國に一番多く blackbird つか thrush つか云つた鶇(ヒナ)の類の啼聲を示すものであらう。因に nightingale にはキーツの詩で特に有名な鳥になつてゐるが、色や形は日本の鶇に似てゐても、啼聲は全く似てゐつかぬ迫つた、鋭い調子ださうで、筆者なら英國へ行けば是非とも耳に聞いて來たい鳥の聲の一つである。尤もこの一詩のうちであるから、それで當分間に合はせて置くより仕方がない。

第二スタンザの palm には棕櫚をさへつて、cat-kin (「cat」を出した「ちさきな物」、salix caprea) の俗稱。may = hawthorn「ちさき花」。五月に咲く花だから一

may ㄎㄨㄥのじゆふ。 shepherd ㄒㄨ shep (sheep) に herd (guardian) がついた字は、 *shep* の發音より。 *aye* [ei] = ever, always. *tune* ㄒㄨㄥのじゆふ *ㄒㄨ sing* ㄎㄨ同意義。 *lay* = song.

第三スタンザ—— *fields breathe sweet*「野が香はしく息づく」は春の野に薫風の漂ひ流れるのを云つたもの。

*sweet* (= *fragrantly*) は詩にふくある形容詞の副詞的用法。 *wives* = women *a-sunning sit* ㄒㄨ *sit basking* in the sun. *tunes* = songs. *our ears do greet* は [do] *greet our ears* (耳に入る) を押韻の都合で轉置したもの。 *do* は *たゞの添へ* (こ) ば。 *greet* = *accost*. please.

## 春

春、怡しい春は一年中の最上の季節だ。

物みな萌え出で、乙女子は輪になつて踊る。

身に泌む寒さも去り、綺麗な小鳥が囀る——

クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ

ーウ。

猫柳や山櫨さんじゆしの花咲き、田舎家が華やかになる。

仔羊はざれ遊び、羊飼は日がな一日笛を吹く。

吾々はいつも小鳥がこの怡しい歌を歌ふのを聞く——  
クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ  
ーウいふ歌を。

野邊の風薫り、雛菊は歩む足に接吻をする、

若い戀人達は相會し、婆さん達は日向ぼっこをする、

この町へ行つても聞えてくる、この歌が——

クックウ、チャグチャグ、ビューウィー、ツウィッタウ  
の歌が。

春よ、おゝ怡しい春よ。

この春の歌にはエリザベス朝獨特の陽氣さ、長閑さが漲つてゐる。歌の調子そのものが明るくて、「楽しい英國」(“*merry England*”) の人々の田園的春の陽氣な氣分乃至生活を遺憾なく反映してゐる。昔から今に至るまで、春を主題とした歌は數知れぬほど多數である。しかもナッシユの春の歌よりも偉大で、深みのある、優れた歌も尠くない。例へば同じ『金玉集』の中にあるもので、グレイの *Ode on the Spring* ショリーの *Dream of the Unknown*、ワーヅワスの *Lines written in early Spring* など、その一

例に過ぎないが、何れにも一沫の寂しさ、哀しさが漂つてゐる。眞の陽春の歡喜といふものは求められない。現代人の氣分からは遙かに遠い感じがするが、そこに特色があり一種言ふべからざる魅力があるのである。愛すべき春の歌の一つとして推奨するに足るものであらう。

春の景物を中心として春を歌つたもの、即ち「駒鳥」、「董」「黄水仙」、「郭公鳥」、「雲雀」、「櫻」などを除外し、標題に「春」、「春の朝」、「三月」などを記したものを、手許にある本の中から拾ひ上げてみるに、前に掲げたもの、外にワージワスの *Written in March*、ブレイクの *To Spring*、*Spring Song*、*Spring*、ルイス・ホルムの *Ode on a Fair Spring Morning*、バーンスの *A Spring Song*、メマリ・ハウエットの *The Coming of Spring*、メンテ・ロゼンティの *Barren Spring*、クリスチナ・ロゼンティの *Spring Quiet*、ロント・ブリッヂェズの *Spring Goeth All in White*、*Spring*、アリス・メイネルの *In Early Spring*、チャイスの *Early Spring* 等々がある。この中特に目立つて美しく、恐らくすべての人の愛誦可能な歌はブリッヂェズの *Spring Goeth All in White* である。

ロバート・ブリッヂェズ (Robert Bridges) は前の桂冠詩人で、イギリスの傳統的詩魂を最も豊潤に繼承してゐる點に於て實に第一人者であつた。一八四四年十月二十三日、ケントのドウヴァに近いウォルマーに生れ、一八五四年から約十年間をイートンで過した。後四年間オックスフォードのコーバスクリスティ大學で醫學を修め B・M. を得て卒業し、ロンドンで實地臨牀の研鑽を積んだが、後文學に没頭

### SPRING GOETH ALL IN WHITE

Spring goeth all in white,  
Crowned with milk-white may :  
In fleecy flocks of light  
O'er heaven the white clouds stray :  
White butterflies in the air ;  
White daisies prank the ground :  
The cherry and hoary pear  
Scatter their snow around.

て國に奉じたばかりでなく、綴字法に、發音に、習字に多

し、晩年、オックスフォードの西南ボーアが丘を永住の地と定め、一九三〇年四月二十一日没するまで二十有餘年間、詩作に、講演に、すばらしい文學的活動を續けた。常に舊套を打破し、新體を拓いて清新の思想感情を歌ひ、典雅にして透明な風格をもつ桂冠詩人となつた。

大の興味を關心を有し、國語美化の實際運動を起し、又詩形の學に造詣深く、批評家としても名が高し。

詩型は各行主としてアイアンビック三韻脚から成り、交互に押韻する (white, light; may, stray; air, pear; ground, around) 四行のスタンザ (stanza) 二つから成つてゐる。第一スタンザ第二行の Crowned ([krāunid]) 第二音節に讀む) の第二スタンザ第四行の Scatter (はトロロクケイク、又第二スタンザ第一行の in the air はアナビースティック (弱々強) になつてゐるが、全體を貫くりズムはアイアンビック即ち弱強の上昇リズムである。

標題 *Spring Goeth All in White* は第一行をそのまま

取つたものであるが、「春が白無垢の裝束で行く」が文字通りの意味。我が國でも佐保姫なきいふ如く、春を擬人化して、過ぎゆく白衣の麗人に見立てたのである。geen [goun] は古文、擬古文、詩などに用ゐられる。三人稱單數形。all in white は「白無垢の衣を着た」、a woman in white からは「白衣の女」。Crowned with (何か) 冠つて、頭に頂つて。may = hawthorn, in fleecy flocks は「羊毛の塊の様になつて」から「羊群になつて」、羊群

のやうだ」の意。fleecy flocks には「ちらちら音のマリタレイシメン (alliteration 頭韻) がある。in は「……になつて」。of light is of gold なかゝ同様、よく詩に用ゐられる語形で、bright, luminous の意。Over [oe, o:] = overprank = deck, adorn, cherry は西洋櫻で花は白なのである。hoary = white, snow は雪の様で白花ひよのうた。

白裝束の春は行く

白裝束の春は行く、

乳白の山櫛の花を頭かさしらに。

白雲は空にさまよふ、

輝ける羊の群をうち群れて。

白き胡蝶は空に舞ひ、

雛菊白く地を飾り、

櫻と梨の白き花

雪がまがひ散りしけり。

山櫛の花も、雲も、蝶も、雛菊も、櫻の花も、梨の花も、

ひらひらして白からぬものゝない地上一面空々までも白色一色に輝き匂ふ英國の春の景色、それを白衣逍遙の麗人に擬したこの素朴溫雅な自然詩の中には、何處もなく作者

ブリッヂェズその人の面影が偲ばれる感じがする。(續く)